

【中学校・国語A】つまずきに対する推奨したい取組

(1)つまずきの多かった問題	(2)これから必要な指導	(3)すぐに具体的に取り組むこと	※推奨したい理由
<p>1 画面に示された字幕についての説明として適切なものを選択する[2年]</p> <p>2二 スピーチの構成を説明したものとして適切なものを選択する[1年]</p> <p>8一 詩について説明したものとして適切なものを選択する[2年]</p> <p>9六2 行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適切なものを選択する[1年]</p>	<p>・話し言葉と書き言葉を混同せずに作文を書くようにする。</p>	<p>○書いたものを推敲する時間を授業内で確保する。</p> <p>○教師側からの添削指導も継続して行っていく。</p> <p>○言語事項は学習したその時で終わりにせず、常に振り返らせていく。</p>	<p>※表現内容を見直したり、吟味したりする時間を確保している。(書かせっぱなしにしない質を高める指導。)</p>
<p>7一 先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す[1年]</p> <p>9五 話し合いの記録として適切な言葉を考える[1年]</p>	<p>・事象や行為などを表わす多様な語句について理解するために、様々な文章に触れ、一つ一つの言葉に対して、意味を確認するなど丁寧に向き合わせる。</p> <p>・相手意識を持って、内容が伝わる適切な言葉を選んで話すことを身につけるために、語彙力を増やすことと日常生活の実践的な場を想定した活用練習を行う場を設定する。</p>	<p>○各教材において、新出の言葉や、慣用句などについて、意味を調べ、短文や日記、作文を書く学習を単元計画の中に設ける。</p> <p>○継続して使用する学習プリントを準備し、記入状況を評価する。11月の2学期期末テスト、2月の学年末テストで出題し、定着を確かめる。</p> <p>○単元「読書案内を作ろう」において読書案内を作成するために、教職員への取材活動を取り入れる。公の場での話の仕方と言葉の選び方に気を付けて、相手と場面を想定した「話す・聞く」の実践的な学習を授業で取り上げる。</p> <p>○取材を想定した学習プリントを準備し、相手とのやりとりの中で、言葉を選ぶことができるか評価する。</p> <p>○学年末にリスニングテストを行い、定着を確かめる。</p>	<p>※取組が具体的で実効性がある。</p> <p>※評価方法が明確に示されている。</p> <p>※生活の中から活動を仕組み、実践的な学習となっている。</p>
<p>9三アイ 適切な語句を選択する[1年]</p>	<p>・各教科等の学習や、読書活動をする中で出会う言葉の意味、具体的な使用例を考えて活用させる。</p> <p>・教師の言葉や掲示物・配布物等に、ことわざや慣用句等を意図的に取り入れる等の言語環境を整備する。</p>	<p>○ことわざ、慣用句、故事成語の授業で、意味や語源のみならず使われる場面を具体的に考えさせる。</p> <p>○毎週金曜日の短作文を書く時間で使用することを意図的に行い、よい作品を紹介して定着を図る。</p>	<p>※具体的な指導場面を決めていて、実効性が高い。</p> <p>※一過性のものでなく、継続して取り組むことで定着を図りつつ、生徒のよさを広げる視点がよい。</p>

【中学校・国語B】つまずきに対する推奨したい取組

(1)つまずきの多かった問題	(2)これから必要な指導	(3)すぐに具体的に取り組むこと	※推奨したい理由
<p>1三 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く[1年]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少し長い文章を書く場面でも、短い文章を書く作業から始めて、少しずつ長い文章で自分の考えをまとめさせる。 ・つまずきの要因が、「比喩」を用いた表現に着目していないことと、その比喩が「誰(何)」の「どのような様子なのか」を明確にして書かせる。内容だけでなく、表現に着目した読みの指導も重視する。 	<p>○職場体験のお礼状を書く活動を通して、自分の考えを文章にまとめる練習を行う。また、パネルディスカッションの学習を通して、相手の考えや意見を尊重し、互いの発言を比較・検討しながら自分の考えを広げることができるように支援する。意見文を書く活動では、社会生活の中から課題を見つけ、情報を集め、自分の意見を文章にまとめさせる。</p> <p>○単元「走れメロスの魅力を紹介する～文章の表現の工夫について自分の考えを分かりやすく伝える～」において、表現に着目して魅力を紹介する文章を書く学習活動を行う。交流を予告し、分かりやすく伝える力が身に付くように指導する。</p>	<p>※3つの単元を関連させて、具体的な指導を明記している。</p> <p>※つまずきの要因を分析して対策をたて、単元構成に反映して授業改善に具体的に つなげている。</p>
<p>2三 スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す[1・2年]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の伝えたいことが聞き手に対して十分に伝わる内容や表現になっているかを確認させる。 ・実際にスピーチをしている様子を、機器を用いて録画したり、話し手と聞き手の役割を変えて効果的に伝わっているかを確認させたりする。そこで実感したことをまとめさせ、次の学習に生かせるようにする。 	<p>○単元末の学習に、学習を通して学んだことを200字程度にまとめ、スピーチさせ、互いに評価活動を行い、スピーチの内容を振り返らせていく。</p>	<p>※機器の有効活用を行っている。</p> <p>※具体的な字数提示による評価活動・振り返り活動を行っている。</p>
<p>3二 太宰治と他の作家との関係を書き直したものとして適切なものを選択する[1年]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の内容を吟味して必要な情報を取り出し、適切に関連づけたり再構成したりさせる。 	<p>○「読書生活を豊かに」の単元で行う「二年〇組のお薦めの31冊読書案内を作ろう」の活動で、選んだ本や文章などから構成や表現に関する適切な情報を得て、現1年生に紹介する読書案内を作成させる。作成した読書案内を1年生の廊下に掲示し、興味を持った作品や本の案内のしかたについて感想を付箋に書いて貼らせる。</p>	<p>※他の学年に紹介する場面を設定することで、より主体的な学習につながり、言語活動の活性化につながる取り組みをしている。</p>

【中学校・数学A】つまずきに対する推奨したい取組

(1)つまずきの多かった問題	(2)これから必要な指導	(3)すぐに具体的に取り組むこと	※推奨したい理由
<p>1 (3)</p> <p>10-6÷(-2)を計算する[1年]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・終わりの会などの時間に、基本的な計算練習の時間を確保する。 ・数学の授業では、ティームティーチングの幅を広げ、できる限り多くの教師が授業にかかわり、知識面（用語や法則など）の習得を図り、活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○つまずき発見問題集などを活用しながら、自学や休み時間、昼休みの時間等を使い、基本的な計算問題を毎日継続させる。 ○単元や分野によって、数学の時間に複数の教師を確保できるように時間割を調整する。また、時間の空いている教師が、数学の授業を参観し、個別に指導できる体制をつくる。 	<p>※できるだけ多くの教師がかかわり、つまずきを解消する指導体制が工夫されている。</p>
<p>8</p> <p>事柄「$\angle ABD = \angle CBD$、$\angle ADB = \angle CDB$ならば、$AB = CB$である。」の仮定をすべて書く[2年]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命題の仮定と結論の区別、証明の方法などの定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図形の性質を自ら発見したり、かいて確かめたりする主体的な活動を取り入れ、具体的なイメージをもって課題解決できるようにする。 ○証明の基礎的・基本的な方法についてスモールステップで定着を図る。 	<p>※系統性を大事に、各指導事項を関連させて指導する視点がよい。</p>
<p>1 1 (1)</p> <p>一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、式で表すことができる[2年]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関数分野について、式・表・グラフから変化の様子を読み取ったり表したりさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○用語の徹底（かみ砕いた説明と正しい用語の使い分け）、式・表・グラフのどの部分が何を示しているか、どうつながるかをおさえさせる。ドリル学習でパターンをつかませる。 	<p>※単元の中で繰り返しの学習を大切にしながら、知識、技能の習得を図っている。</p>
<p>1 1 (2)</p> <p>変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ[2年]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面で、一次関数の表におけるxとyの値の変化を調べる活動を通して変化の割合の意味を理解させる。 ・一次関数の表や式、グラフを相互に関連付け、関数の関係を見出し、表現し、考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の指導内容の系統性を確認し、関数の既習事項を関連付けて関数の見方を深める。 	<p>※学ぶ側の思考で授業を再構築し、生徒の学びの実感を大事にする授業改善を実施しようとしている。</p>

【中学校・数学B】つまずきに対する推奨したい取組

(1)つまずきの多かった問題	(2)これから必要な指導	(3)すぐに具体的に取り組むこと	※推奨したい理由
<p>1 (1)</p> <p>隣り合う4枚の正三角形の真ん中の1枚をある模様としたときに、残りの3枚にできる模様を選ぶ [1年]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対称性を的確に捉えられるよう、観察・操作や実験等を通して図形の性質や特徴を十分に実感させていく。 ・数学的な見方を育むために、学習場面を、日常的な事象と結びつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後学習会の中で、類似問題を提示し、実際に模様づくりに取り組ませながら、「対象」と「日常事象」を結びつける場面を意図的に設定する。 ○模様づくりの中では、「この図形が万華鏡を通すところのような模様になる」という関係を明確に表現させる。 	<p>※指導時間の確保を工夫している。</p> <p>※日常生活と関連付けながらの指導を行っている。</p>
<p>2 (2)</p> <p>六角形をn個並べて6本ずつ囲んだときに、2回数えているストローをnを用いた式で表す [1年]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いて数量の関係や法則などを式に表したり式の意味を読み取ったりさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○12月の「円の性質」の単元で証明の筋道を読み取り、説明できるようにし、1月の「三平方の定理」の単元で、式の意味を読み取る活動を設定する。 	<p>※各単元でつけたい力を明確にし、指導の重点化を図っている。</p>
<p>4 (3)</p> <p>点Dと点EをBD=CEの関係を保ったまま動かしたとき、∠BFDの大きさについて、正しい記述を選ぶ [2年]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の証明の後に、条件を保ったまま図を動かすとどうなるか観察し、辺や角について変わらない性質を見出させる。 ・問題の一部を変えたらどうなるかを発展的に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1つの図で証明したら、条件を保ったまま点を動かすとどうなるかをコンピュータ等で操作しながら辺や角について変わらない性質を見出す活動を取り入れる。 ○1つの証明問題をもとに、問題の一部を変えた問題づくりの授業を取り入れる。 	<p>※数学Aについても、つまずきの要因をその問題にとどまらない視点で分析している。必要な数学的思考を見通して、具体的な問題場面や発展的思考場面を想定して授業改善の具体を示している。</p>